

高速道路上で人がはねられる「人対車」事故が倍増しています。事故や故障でやむを得ず車を本線や路肩に止め、避難のために車から出て歩いているところなどを後続車にひかれたりするものです。

11年1月か

ら11月末までの発生件数は全国で30件、死者36人と前年対比で倍増、高速道路での死亡事故全体の約19%を占めます。車外に出た理由としては、「車両故障」と「交通事故」

高速道の人対車事故

が全体の70%弱。危険を避けるため「停止標示器材（三角表示板）」等を立てていたのは24件中4件でした。

悲劇を招かないためには、日頃からの車両点検（オイル、タイヤ、燃料など）と停止表示器材の車載が肝要です。不

測の事態が起きた時は、後続車に対して安全措置を取った上で、ガードレールの外側など安全な場所に移動して待機しましょう。

交通安全10メモ